

# 出穂の早いほ場は刈取適期に入っています！

## 稲穂を確認し、早目の刈取りで高品質米に仕上げましょう！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

今年は、出穂期が早まったため、刈取適期も早まっています。7月末日までに出穂したほ場では、刈取適期に入りました。着実に登熟は進んでいます。稲穂を早急に確認して、早目に刈り取りましょう。

9月2日発表の1か月予報（9月4日～10月3日）では、気温、降水量、日照時間いずれも平年並みの見込みです。天気予報を確認しながら、刈り遅れることがないように計画的に刈取作業を進めましょう。

### ◎登熟状況

9月6日現在の登熟歩合は、県内平坦部「はえぬき」の平均で**76.6%（平年差-1.7%）**（表、図）、「雪若丸」**80.4%（前年差-4.9%）**で、平年並みに登熟が進んでいます。7月31日頃までに出穂した「はえぬき」「雪若丸」は、刈取適期に入っています。

	はえぬき	つや姫	雪若丸
本年	76.6	54.4	80.4
前年	83.8	73.1	85.3
平年	78.3	68.1	—
平年差	-1.7	-13.7	—

農業技術普及課調べ、県内平坦部平均

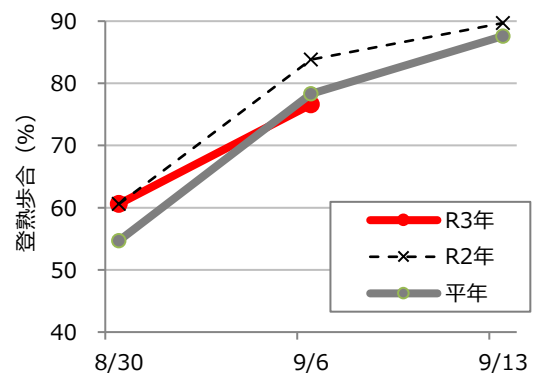


図 県内平坦部「はえぬき」の登熟歩合の推移 (農業技術普及課調べ)

### ◎早急に稲穂を確認し、早めの刈取り

ほ場によっては、登熟及び籾の黄化が進んでいます。出穂後日平均気温積算値（積算気温）を目安に、早急に籾の登熟状況を確認し、早目に刈り取りましょう。

### ◎刈遅れは、胴割粒・茶米等の発生による品質低下の恐れあり！適期刈取りの徹底！

出穂後10日間の気温が高温で経過したことから、胴割粒が発生しやすい条件となっています。刈取適期を過ぎると通常より早く品質が低下しますので、絶対に刈り遅れないようにしましょう。㎡当たり籾数が多いほ場では、青籾歩合の低下が緩慢になる場合がありますが、ほ場毎に登熟状況を細かに観察し、的確な診断と、早めの刈取りで胴割粒や茶米等の発生による品質・食味の低下を防ぎましょう。

### ◎きめ細かな乾燥・調製で最高の品質に

乾燥時は、籾水分を必ず確認するとともに、青籾歩合や張込み量を十分に把握し、丁寧な乾燥を行います。特に、籾数が多く、籾水分のバラツキが大きい場合は、水分の戻りに注意が必要です。また、胴割粒の発生による品質低下を防ぐため、二段乾燥や夜間休止を行うなど、ゆっくり・丁寧な乾燥を行きましょう。籾摺り時は、適正な水分や穀温であることを確認し、必ず「試しずり」を行ってロール幅などを調整し、肌ずれや砕け等による品質低下を防ぎましょう。

## 農作業事故に十分注意してください！

農作業は休憩と水分を十分にとりながら、余裕を持って複数人数で行いましょう。コンバイン使用時等、収穫作業における重大事故に注意しましょう。 **STOP農作業事故！**